



ハーバード ジャパントリップ2007 公衆衛生国際交流シンポジウム エキストラトーク~西洋医学と漢方医学の融合~

「ハーバード ジャパントリップ2007」は、アメリカ・ハーバード大学公衆衛生大学院の学生が来日し、日本の医療や文化を学ぶツアー。その一環である「公衆衛生国際交流シンポジウム」のプログラムとして、世界から注目されている漢方をテーマにした「エキストラトーク」が開催された。

主催：ハーバード公衆衛生大学院日本人会 協賛：株式会社ツムラ
日時 2007年3月26日 場所 東京大学医学部総合中央館(医学図書館)3階大会議室



TALK 1

日本の漢方医学教育体制の現状

東京大学 医学教育国際協力研究センター 教授 北村 聖先生



学生の関心は高く 80%の大学で実施

東京大学医学部の学生を対象にしたアンケートでは、95%の学生が「漢方医学に関する講義は必要だと思う」と答えています。その理由として、「西洋医学では不足している部分がある(45%)」、「疾患によっては漢方医学が優れている(39%)」、「今後の医療で必要だと思う(37%)」といった回答が寄せられています。漢方医学の講義に対しては、54%が「現状の3コマで

は十分、85%が漢方医学の臨床実習を受けたら、受けてもよい」と答えています。さらに「将来、医師になった時に漢方医学を活用しようと思うか」という問いには、75%が「使いたい、使うこともあると思う」と答えています。このように現在、多くの医学部の学生が漢方医学の有効性に関心をもち、学びたいと考えています。

教員の育成など 抱える課題は多い

とはいえ、日本の漢方医学教育はさまざまな課題を抱えています。まずは優秀な漢方医学の専門家、漢方医学の講義が行われる医科大学すべてにおいて、漢方医学の講義が行われている。また、漢方医学の臨床実習を通じた教育を行うことも重要です。また大きな問題は、漢方医学を教えるための教員が不足していること。漢方医学教育を担うことができる教員の育成は急務といえるでしょう。さらに、大学における漢方医学教育を充実させていくうえで、学内全体に漢方教育に対する理解を浸透させることも不可欠です。

TALK 2

漢方は世界保健にどのように貢献できるか?

慶應義塾大学 医学部 漢方医学講座 准教授 渡辺賢治先生

WHOや欧米から注目を集める漢方

今、欧米では補完代替医療への注目が集まっています。アメリカの国立衛生研究所(NIH)は国立補完代替医療センターを設立し、年間予算1億2千万円で伝統医学や生薬の研究を進めています。慶應義塾大学ではNIHからの助成を受け、ハーバード大学と漢方の共同研究を行っています。

世界保健機関(WHO)も東洋医学への支援を推進しています。2006年には筑波で行われたWHO西太平洋地区会議で経穴(ツボ)の



位置の標準化が決議されました。ユネスコの国際分類ファミリー会議では伝統医学疾病分類が議題になりました。アジアでも伝統医学の見直しが始まり、国をあげたプロジェクトが進行しています。このような情勢なか、日本の伝統医療である漢方にも世界から注目が集まっています。慶應義塾大学にも欧米から多くの留学生が漢方を学びに来ています。英文誌への漢方に関する論文の掲載も増えています。

漢方は「病気」ではなく、「人」を治すことを目指しています。「証」という概念により、患者一人ひとりの体質や個人差を重視し、問診、おなかや脈、舌の状態の確認で診断します。そして証に基づき、天然の生薬で作られる漢方製剤が処方されます。たとえば八味丸は疲労、頻尿、冷え、糖尿病などの症状を

位置の標準化が決議されました。ユネスコの国際分類ファミリー会議では伝統医学疾病分類が議題になりました。アジアでも伝統医学の見直しが始まり、国をあげたプロジェクトが進行しています。このような情勢なか、日本の伝統医療である漢方にも世界から注目が集まっています。慶應義塾大学にも欧米から多くの留学生が漢方を学びに来ています。英文誌への漢方に関する論文の掲載も増えています。

もつ人に投与されます。漢方では一つの薬で複数の疾患に対応できるのです。症状ごとに薬が必要な西洋薬と異なり、薬の数を減らせるので医療費の削減効果も期待されています。現在、漢方製剤には健康保険が適用されており、7割以上の医師が日常診療で使用しています。とくに西洋医学では病名がはっきりしない症状や、生活習慣病の予防などに使われています。私は内科医ですが、さまざまな漢方を処方することで患者の健康回復に大いに役立っています。

漢方が世界の保健に貢献するには、効果と作用メカニズムを明らかにする必要があります。現在、そのための研究も多数行われており、科学的データも蓄積されています。たとえば慶應義塾大学

の研究では、大腸がんの手術後の腸閉塞を予防するために漢方薬を使うことで入院期間が短くなったというデータが出ています。長期に鎮痛剤を服用する患者さんでできる小腸潰瘍も漢方薬で治療できるというデータもあります。また、脱髄神経の再髄鞘化も示唆されており、安価な再生医療として注目されるかもしれません。今後の予防医学を考えた場合、漢方薬の持つ高い抗酸化能に動脈硬化予防への期待がかかります。

医療費の削減など、漢方は高齢社会の医療に大きな可能性をもたらします。そんな伝統医療の英知の理解が、技術の発展でようやく可能になってきました。今後、エビデンス(科学的根拠)を蓄積し、海外向け英文論文を発表する努力を続けることで、漢方は世界の保健に大きく貢献できるようになるでしょう。

TALK SESSION

西洋医学と漢方医学の融合

慶應義塾大学 医学部 漢方医学講座 准教授 渡辺賢治先生
慶應義塾大学 医学部 准教授 グレゴリー・プロトニコフ先生



シンポジウムの最後には、渡辺賢治准教授、慶應義塾大学で漢方を研究するグレゴリー・プロトニコフ准教授に加え、ハーバード大学公衆衛生大学院、東京大学、慶應義塾大学の学生らが「西洋医学と漢方医学の融合」をテーマに議論した。

渡辺 アメリカでは中国の伝統医学である中医学はよく知られていますが、漢方はあまり知られていません。「漢方」とは江戸時代に入ってきた西洋医学「蘭方」に對し、それまで日本で行われていた医療を総称して呼んだ言葉。日本で発展した日本独自の医療文化です。華南が世界で初めて全身麻酔による乳がん手術を行ったように、江戸時代の日本の医療は世界でも最高峰だったと思います。しかし西洋化を推進する明治政府が伝統医学を否定したため、漢方は衰退してしまいました。



プロトニコフ アメリカでは、東洋医学と西洋医学の融合や、伝統医学と近代医学の融合といった統合医療が大変注目されています。日本では漢方医学がその融合を象徴しています。世界で最も古い伝統的な治療の一つとして、漢方医学は患者にとっても社会にとっても大きく貢献できるのではないかと思います。漢方医学は心と体のバランスを重視し、西洋医学とは文化的にも体系的にもまったく異なる



学生たちの意見 ● 診療所での患者の訴えは、あいまいで、学校で習った検査が通用しないことがあると思う。臨床現場では漢方の有用性は高い。 ● 世界のクオリティ・オブ・ライフを向上させるために、漢方という日本が誇るべき文化をもっと世界に発信すべきだと思う。 ● 西洋医学も東洋医学も

ハーバード ジャパントリップ2007 複数生薬の組み合わせを高度に品質管理 翌日に漢方薬の工場を見学



シンポジウムの翌日、ハーバード大学院生たちはツムラの茨城工場を訪れた。漢方製剤の原料は天然の生薬だ。その生薬を複数組み合わせ、均一な品質の漢方製剤を製造するには高度な技術を要する。ツムラでは、生薬の産地から製造工程まで厳格な管理基準を設け、各種分析技術を駆使し、汚染のない均一で安全な製品を製造している。学生達は工場で、高速液体クロマトグラフィー(HPLC)による成分分析、質量ガスクロマトグラフィー(GC-MS)による残留農薬分析などを見学したが、近代的な品質管理に感心した様子だ。その後、中国から輸入された生薬などが保管されている巨大な倉庫へ。内部は温度、湿度、在庫状況がコンピューター管理されている。ここに並ぶ生薬を切裁し、処方毎に決められた比率で配合、抽出、濃縮、乾燥、造粒というプロセスで漢方製剤にするわけだ。最後に、生薬標本室で実際の生薬に触れて工場見学は終了。この日の体験もシンポジウム同様、学生達の漢方医学への理解を大きく深めたようだ。

参加後のコメント

理想的な品質管理に感動

ツムラの工場では、HPLCによる成分分析など、最新のテクノロジーで理想的な品質管理が行われていることに感動しました。

ジェイシー・フリックスさん

腫瘍との関係の研究したい

薬理学を勉強しているので、トークセッションで西洋医学と漢方医学の比較ができたのは有意義でした。漢方を西洋で普及させるにはさらなる研究が必要だと思いますが、可能性は大きいと思います。腫瘍細胞の成長や増殖の抑制に漢方が有効だと聞いたので、どの成分が関与しているのか研究してみたいですね。

デビッド・パワースさん

アメリカでも普及しそう

このトークセッションに参加するまで、漢方ことは知りませんでした。しかし漢方には、大きな可能性があると思います。アメリカでも最近、薬草やハーブを使いたいという人が増えています。アメリカでもっと紹介できれば、使ってみたいという人は多く、普及するのではないかと思います。

シャンドラ・ジャクソンさん

